

社会福祉施設等における腸管出血性大腸菌感染症の集団感染の防止について

世田谷区の保育園において腸管出血性大腸菌感染症（O157）の集団感染が発生しました。

腸管出血性大腸菌感染症は、感染力が強く、施設や家庭等でも容易に感染が拡大します。また、重症化することも少なくないため、十分な注意が必要です。

都では、乳幼児や高齢者等が集団生活を行う施設において、感染症や食中毒の発生に十分に注意し、手洗いの徹底や施設の衛生管理に万全を期すよう注意喚起を行うことといたしました。

1 都内の保育園の事例

- 9月10日（金曜日）、医療機関より世田谷保健所に、区内保育園に通園中の園児のO157患者発生届が提出されました。
- 同保健所は同日以降、同施設を訪問し、状況調査と衛生指導を行うとともに、同園に通う園児及び職員等を対象とした健康調査を行っています。
- これまでにO157の感染者は10名で、このうち有症状者は9名（いずれも軽症）、となっています。感染者は園児のみで職員の感染者は確認されていません（令和3年9月17日現在）。

2 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況等

- 腸管出血性大腸菌感染症には、O157、O26、O111などの型があり、都内では年間に約300～400名の患者が発生しています。
- 同一施設での集団感染は、都内では稀な事例ですが、全国では年間に7、8件程度が報告されています。
- なお、例年6月から10月は流行する時期にあたり、各施設は、感染症や食中毒の防止に十分に注意し、集団感染等が疑われる場合は、速やかに保健所に報告、相談してください。

3 感染防止のために注意すべき事項

- 腸管出血性大腸菌感染症の感染経路は、経口感染です。菌に汚染された食品等を喫食することにより感染するほか、患者の便や菌のついたものに触れた後、手洗いを十分に行わなかった場合などに、人から人への感染を起こす可能性があります。
- 食事前やトイレの後、排泄の介助やオムツ交換等を行った後には、その都度、石鹸と流水による手洗いをきちんと行うことが重要です。
菌に汚染した可能性のある場所は、適切な方法で消毒を行う必要があります。